



 **日鐵商事株式會社**

2012年3月期 決算説明会

2012年5月22日



1. 事業内容

2. 2012.3期連結業績及び2013.3期予想

3. 中期ビジョン

1. 事業内容

当社の経営理念と経営指針

経営理念

当社は、新日鉄グループの中核商社として、「豊かな価値の創造・提供を通じ、産業の発展と人々の暮らしに貢献する」という基本理念の実現を目指すことと致します。

経営指針

コンプライアンスの徹底を基盤とし、「存在価値の追求」と「生産性の向上」を当社の経営指針と致します。

事業内容① 新日鉄グループの中核商社

グローバルな市場

日鐵商事

● 新日鉄グループを基軸とした取引(単体)

販売: 約 25 % (内、新日鉄6%)
仕入: 約 70 % (内、新日鉄54%)

● 取引先

単体: 約 3,500 社
内外子会社: 約 4,500 社

メーカー商社としての強み

- グループ情報の入手とコーディネート
- メーカーとの戦略共有
- メーカーからユーザーまでの一貫物流
- 技術情報を活用した提案営業
- グループ向け資・機材の取扱い

品質

技術力

海外展開

6事業セグメント

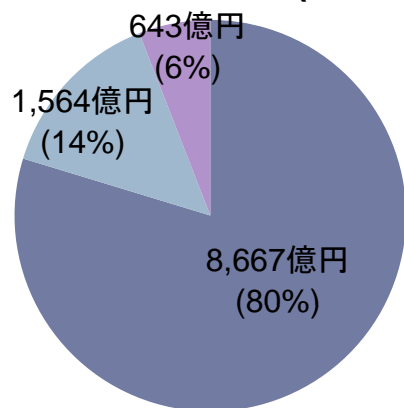
製鉄、エンジニアリング、都市開発、
化学、新素材、システムソリューション
(グループ合計 363社)

新日鉄グループ

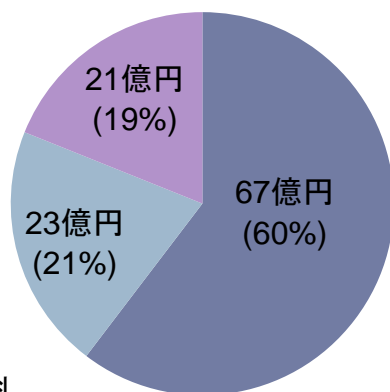
事業内容② 鋼材を中核に鉄鋼周辺事業を展開

- 鋼材事業が連結売上高の 8 割を、経常利益の 6 割を占める

売上高: 1兆875億円(12.3期)



経常利益: 112億円(12.3期)



- 鋼材
 - 原燃料
 - 産業機械・機材
- * () 内は構成比率

鋼材事業

- 新日鉄グループ・電炉メーカーの鋼材
- 国内、海外に加工センターを展開 (コイルセンター、シャーリング、ブランクング)



原燃料事業

- 石炭、コークス、鋼屑などの鉄鋼原料や副原料
- バンカーオイル、潤滑油などの燃料

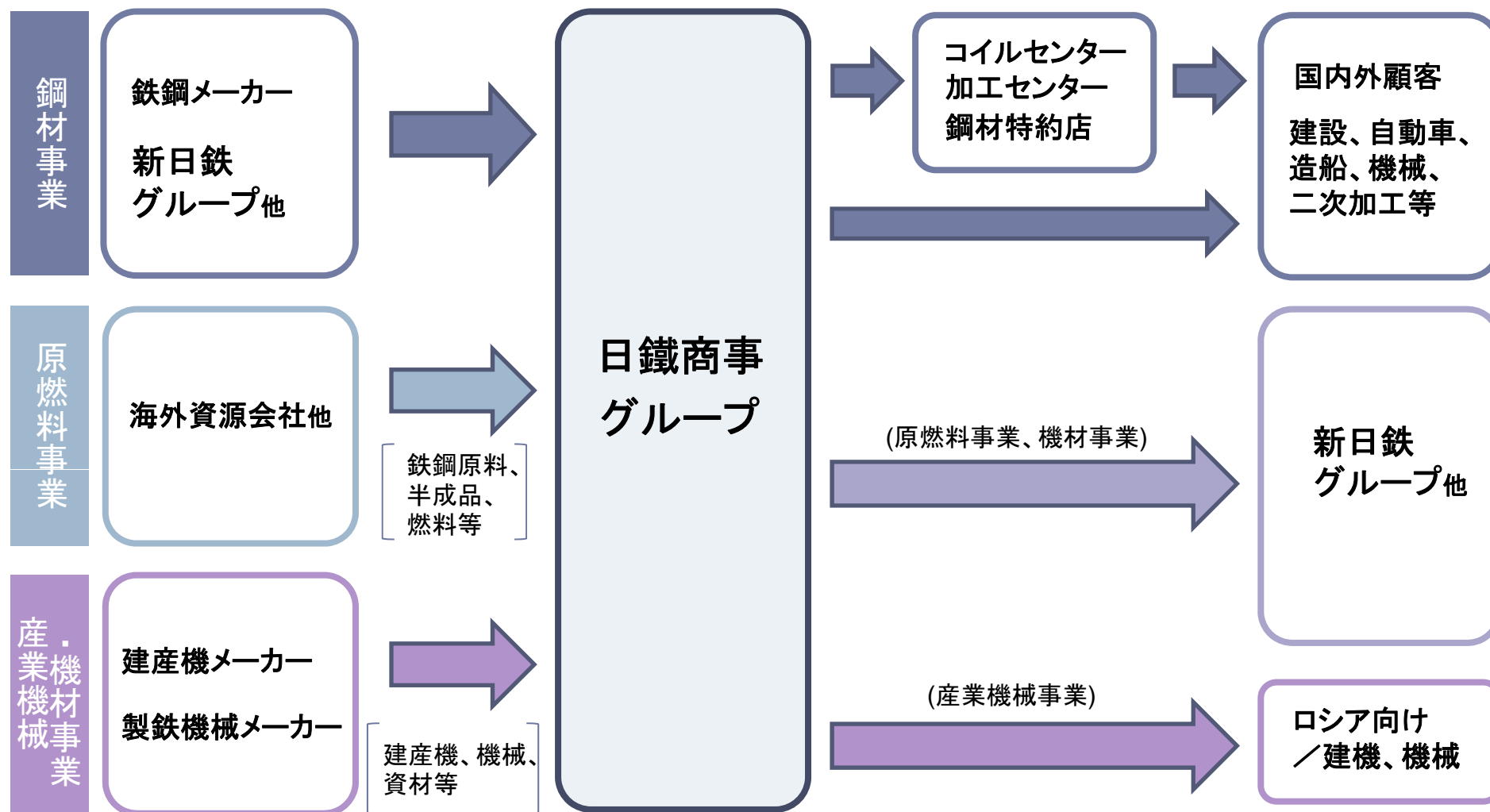


産業機械・機材事業

- 製鉄機械、土木・鉱山用機械などの産業機械
- プラント用鋼材、機械部品などの資機材



事業内容③ 取引の流れ



2. 2012.3期連結業績及び2013.3期予想

2012.3期 連結業績

- 鋼材価格の上昇や国内コイルセンター事業の再編・統合による増収効果があったものの、鉄鋼メーカー向けのステンレス屑などの取扱減により売上高は微増
- 震災やタイ大洪水の影響を受けた国内外子会社の業績悪化などを中心に、経常利益は約12%の減益

(億円)

	10.3期	11.3期	12.3期	増減		業績予想	差額
				金額	率		
売上高	9,196	10,795	10,875	80	0.7%	11,800	▲924
売上総利益	401	476	455	▲20	▲4.4%	-	-
販管費	316	351	348	▲3	▲1.0%	-	-
営業利益	85	124	107	▲17	▲14.0%	120	▲12
経常利益	78	127	112	▲15	▲11.9%	120	▲7
税前利益	75	118	115	▲3	▲2.6%	-	-
当期純利益	52	74	68	▲5	▲7.5%	75	▲6

2012.3期のトピックス

- NSMコイルセンター発足(国内CC事業の再編・統合) …… 2011年10月
- インドネシアでの現地資本と合併でコイルセンター設立 …… 2012年3月
- 香港－マカオ連絡道路「香港人工島」建設工事において、
過去最大規模となる直線鋼矢板の受注 …… 2011年12月
- ロシア向け資源開発用建機の大型案件受注、出荷 …… 2011年上期
- ロシア向けパイプライン用鋼材(厚板・鋼管)の出荷 …… 2011年上期

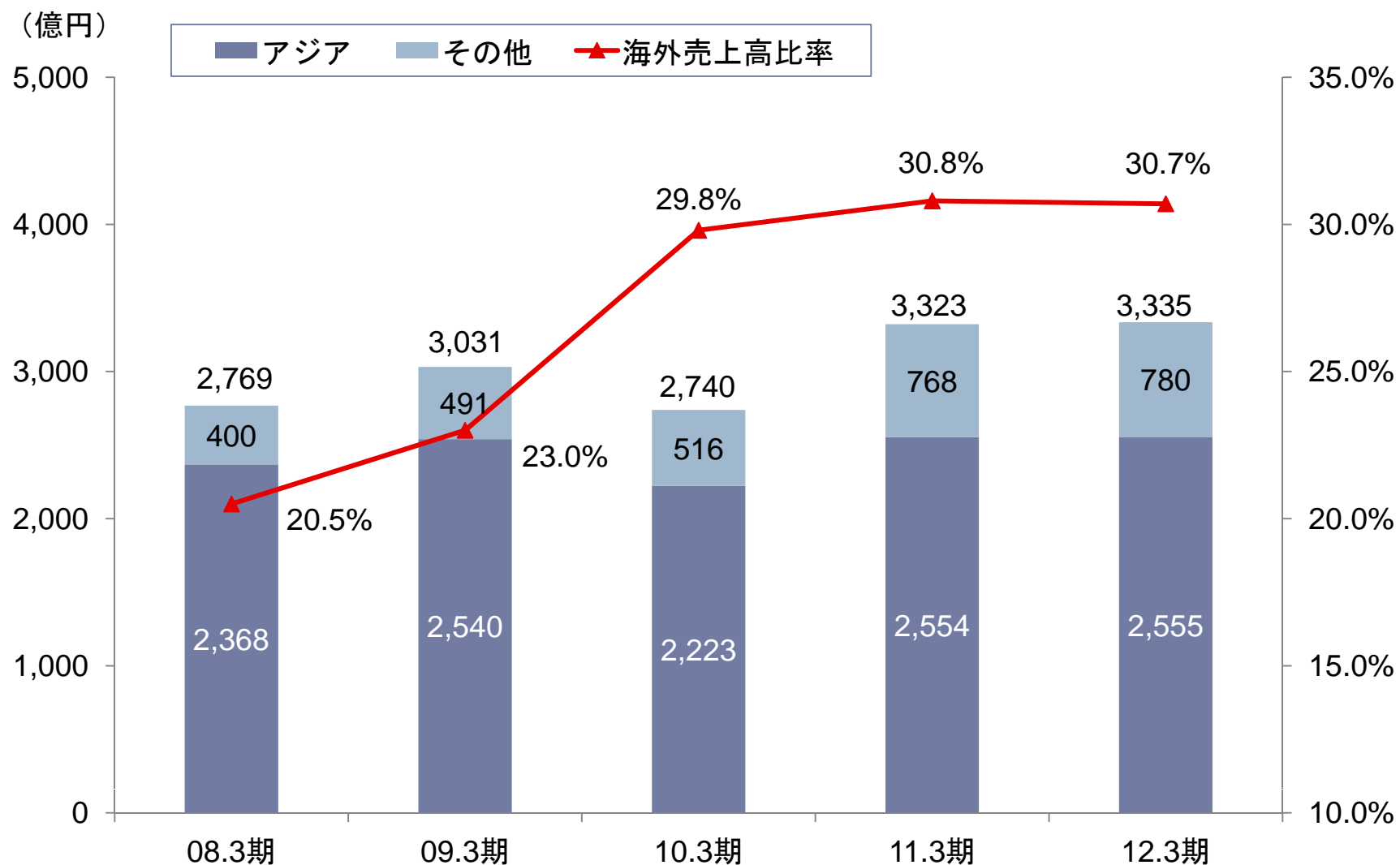
2012.3期 セグメント別連結業績

- 鋼材 ⇒ 価格上昇やNSMコイルセンター発足による統合効果で増収となるも、震災やタイ大洪水の影響を受けた国内外子会社の業績悪化により減益
- 原燃料 ⇒ 鉄鋼メーカーの減産によりステンレス屑などの取扱減により減収
- 産業機械・機材 ⇒ 製鉄所向け大型機械設備納入などにより増収

(億円)

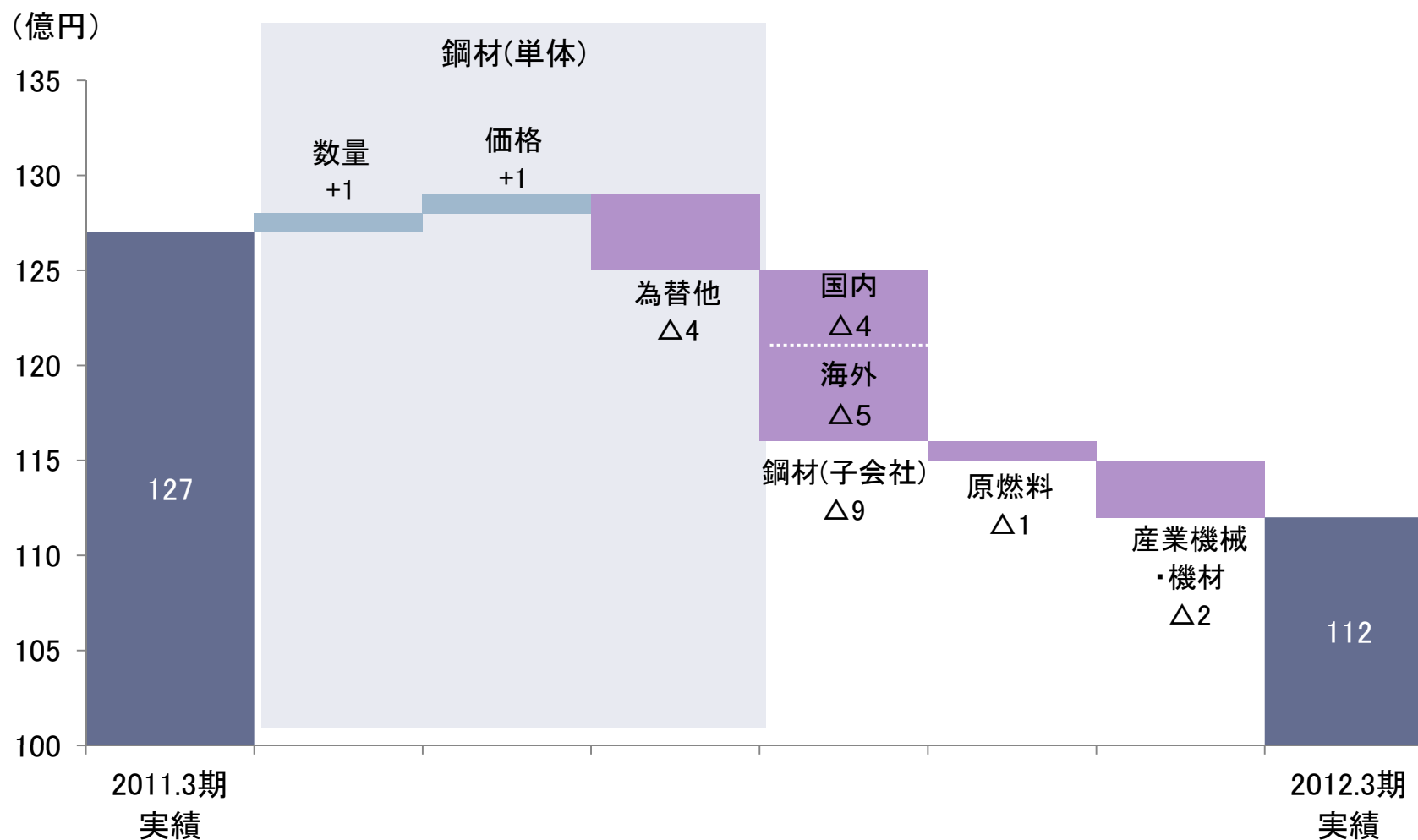
	10.3期	11.3期	12.3期	増減	
				金額	率
売上高					
鋼材	7,125	8,229	8,667	438	5.3%
原燃料	1,579	1,959	1,564	▲395	▲20.2%
産業機械・機材	492	606	643	37	6.1%
合計	9,196	10,795	10,875	80	0.7%
経常利益					
鋼材	35	78	67	▲11	▲14.4%
原燃料	24	24	23	▲1	▲4.3%
産業機械・機材	18	23	21	▲2	▲11.6%
合計	78	127	112	▲15	▲11.9%

連結海外売上高の推移



2012.3期 連結經常利益增減分析

2012.3期 連結經常利益/前年同期比



連結財政状態及びキャッシュフロー

- 種類株式の償還(40億円)により、純資産は22億円の増加にとどまる
- 利益によるキャッシュインや営業債権圧縮などで有利子負債は大幅減少

財政状態

(億円)

	10.3期末	11.3期末	12.3期末	差額
純資産	485	559	581	22
総資産	3,096	3,323	3,333	9
有利子負債	764	779	672	▲107
1株当たり純資産(円)	291.90	319.60	345.44	25.84
自己資本比率	14.6%	14.5%	14.8%	0.3%

キャッシュフロー

(億円)

	10.3期	11.3期	12.3期	差額
営業活動によるキャッシュフロー	187	31	198	167
投資活動によるキャッシュフロー	▲29	▲15	▲23	▲8
財務活動によるキャッシュフロー	▲402	30	▲183	▲214
現金及び現金同等物の増減額	▲243	40	▲14	▲54
現金及び現金同等物の期末残高	162	203	196	▲6

2013.3期予想 マクロ経済動向

国内

- 震災復興需要の本格化
- 設備投資は緩やかに持ち直し
- 電力供給制約、原油高、円高による製造業の海外シフトが懸念

海外

- アジア新興国を中心とした持続的成長
- 米国経済は緩やかな回復基調が持続
- 欧州経済停滞、中国の成長鈍化、円高が懸念

2013.3期 連結業績予想

- 国内、貿易とも鋼材数量増加により増収、増益
 (国内)復興需要の本格化
 (貿易)新興国を中心とした底堅い需要の継続
- 円高による輸入材の増加、東アジアの供給過剰、電力問題によるエネルギーコスト高などが懸念材料

(億円)

	11.3期	12.3期	13.3期 予想	増減	
				金額	率
売上高	10,795	10,875	11,800	924	8.5%
営業利益	124	107	125	17	16.4%
経常利益	127	112	125	12	11.3%
当期純利益	74	68	75	6	9.1%
1株当たり純利益(円)	54.38	50.70	55.77	5.07	10.0%
1株当たり配当金(円)	7.0	7.0	8.0	1.0	—

2013.3期 連結業績予想 セグメント別

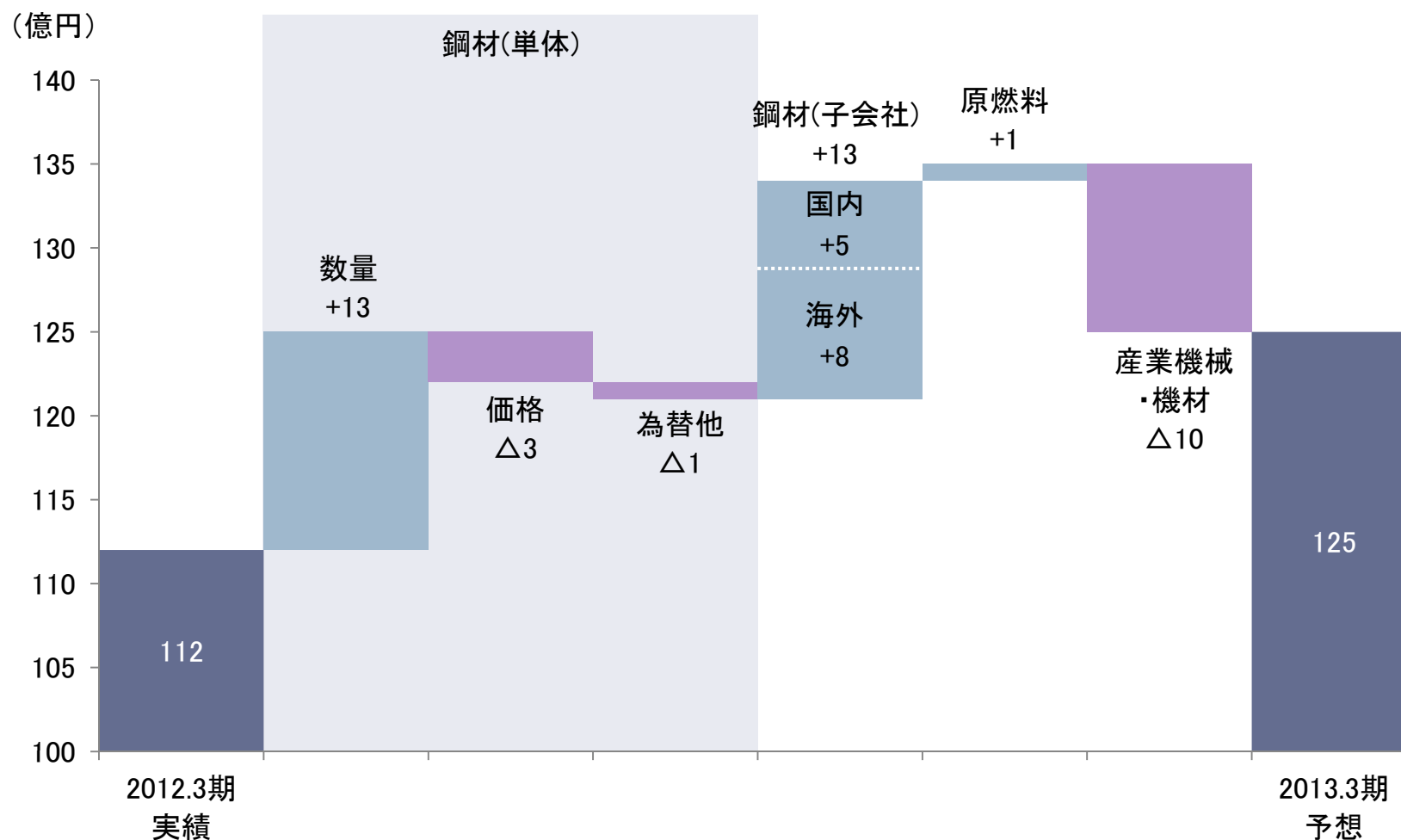
- 鋼材 ⇒ 国内外とも販売数量増加により増収
- 原燃料 ⇒ 鉄鋼メーカーの減産などにより減収
- 産業機械・機材 ⇒ ロシア向け輸出が減少

(億円)

	11.3期	12.3期	13.3期予想	増減	
				金額	率
売上高					
鋼材	8,229	8,667	9,800	1,132	13.1%
原燃料	1,959	1,564	1,500	▲64	▲4.1%
産業機械・機材	606	643	500	▲143	▲22.3%
合計	10,795	10,875	11,800	924	8.5%
経常利益					
鋼材	78	67	89	22	32.7%
原燃料	24	23	24	1	4.5%
産業機械・機材	23	21	10	▲10	▲49.4%
合計	127	112	125	12	11.3%

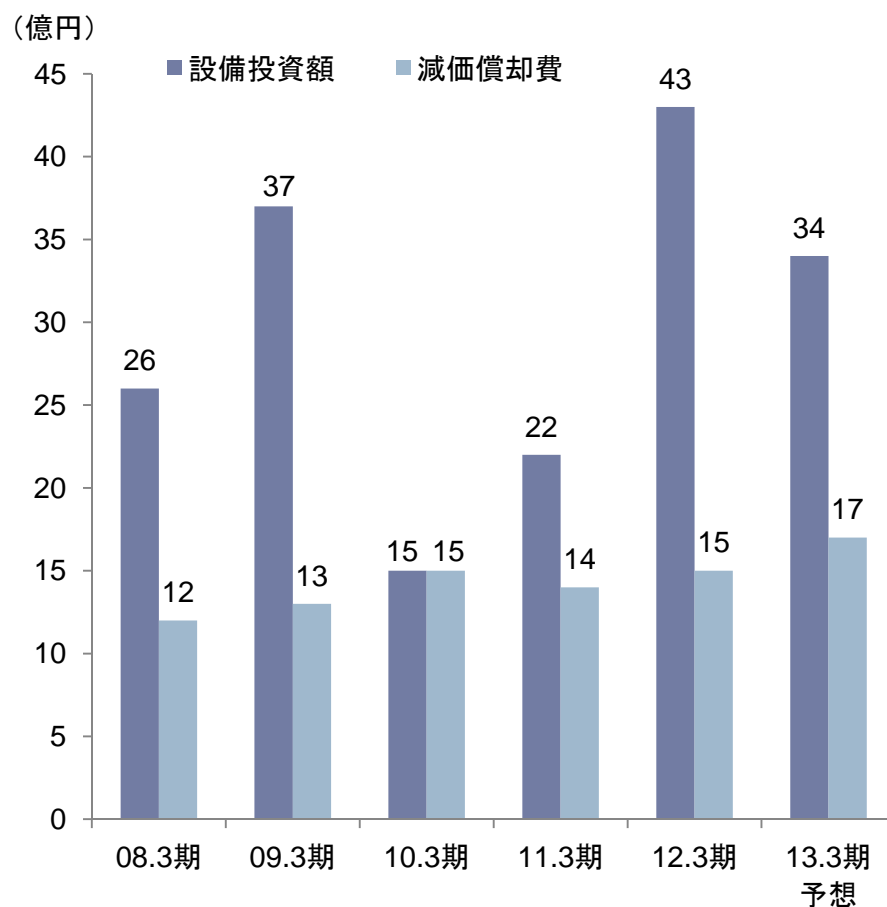
2013.3期 連結業績予想 經常利益増減分析

2013.3期 連結經常利益/前年同期比

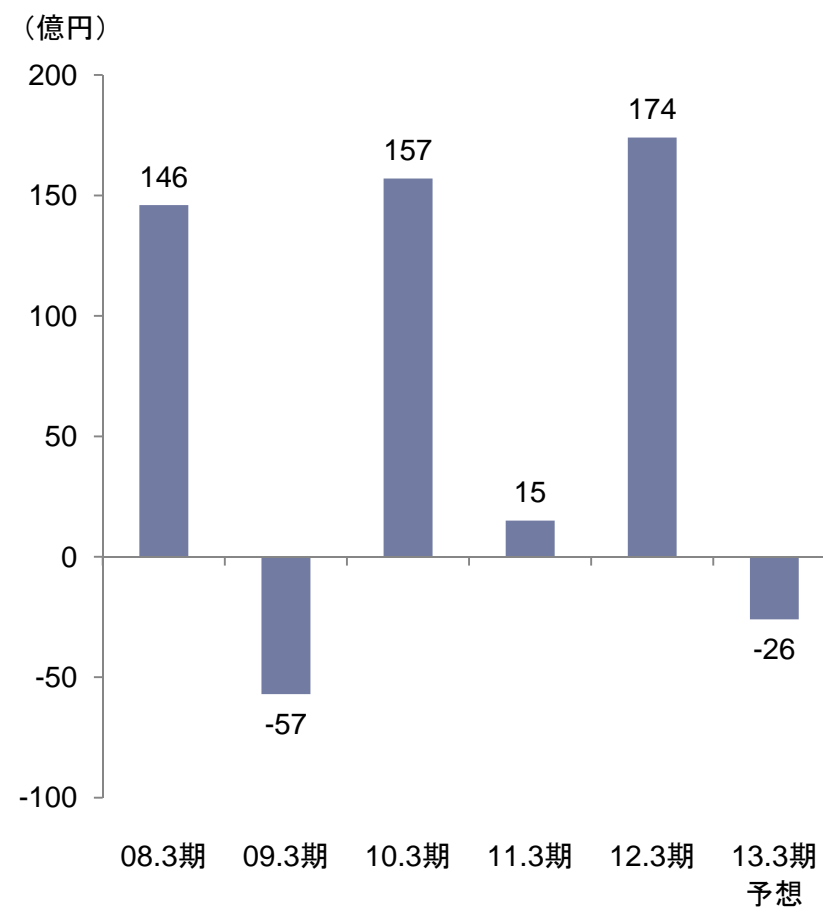


設備投資及び減価償却費、フリーCFの推移

設備投資及び減価償却費の推移



フリーキャッシュフローの推移



株主還元

- 2013.3期の普通株に対する1株配当は8円を予定
- 株主の皆様への継続的、安定的な利益還元 zu 十分留意のうえ、配当方針を決定
- 中期的には配当性向などを基準に業績に応じた配当を目指す

普通株1株当たりの配当

08.3期	09.3期	10.3期	11.3期	12.3期	13.3期予想		
					年間	(2Q)	(期末)
7円* ¹	6円	7円* ²	7円	7円* ³	8円	(4円)	(4円)

*1 2008年3月期配当には、創立30周年記念配1.0円を含む

*2 2010年3月期配当には、一部上場記念配2.0円を含む

*3 2012年3月期配当は、平成24年6月27日開催の定時株主総会にて決定予定

3. 中期ビジョン

中期ビジョン

日鐵商事グループの中期ビジョン

- 新日鐵住金グループにおいても中核商社を目指す
- 積極的に国内外の市場変化に対応し、商社としての存在価値を高める

中期ビジョン

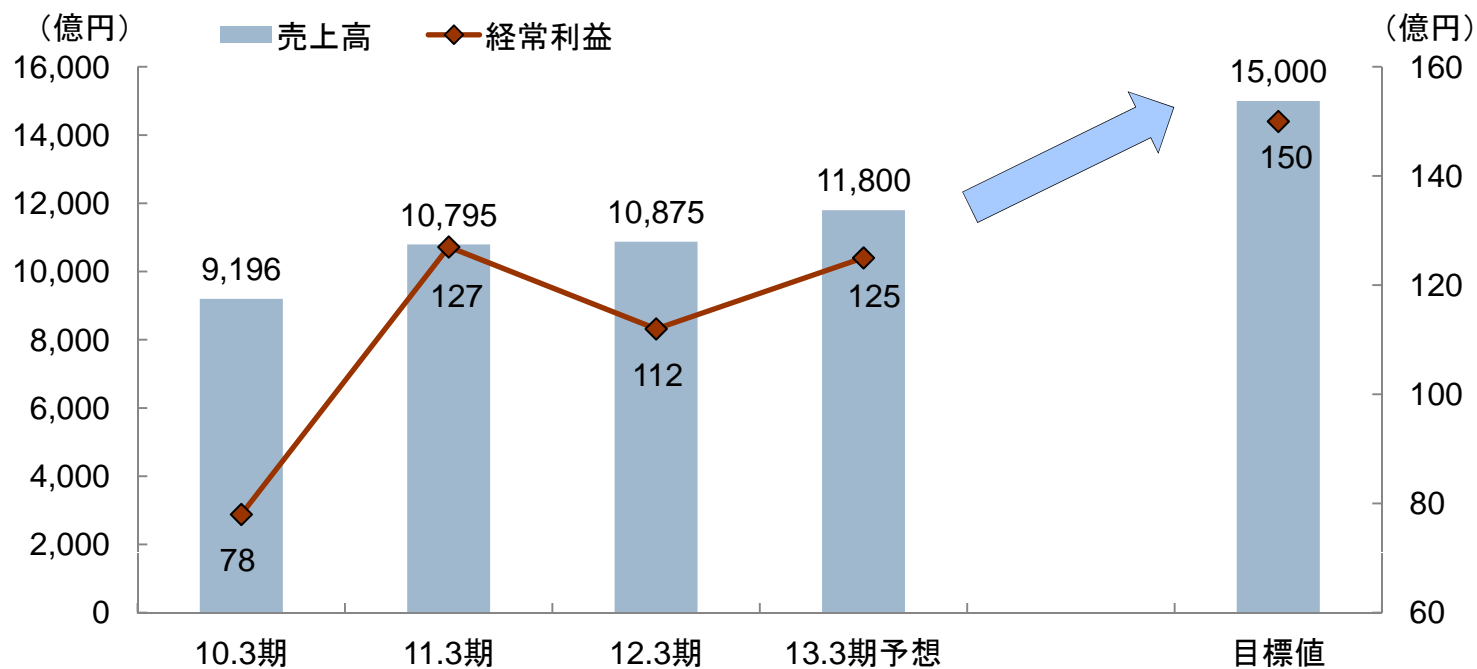
数値目標(連結)

売上高: 1.5兆円

海外売上比率: 40 ~ 50%

経常利益: 150億円

投融资枠: 30 ~ 50億円/年



国内鋼材部門

国内鋼材市場においてポジションアップを目指す

- 顧客密着型営業の強化

販売拠点の拡充

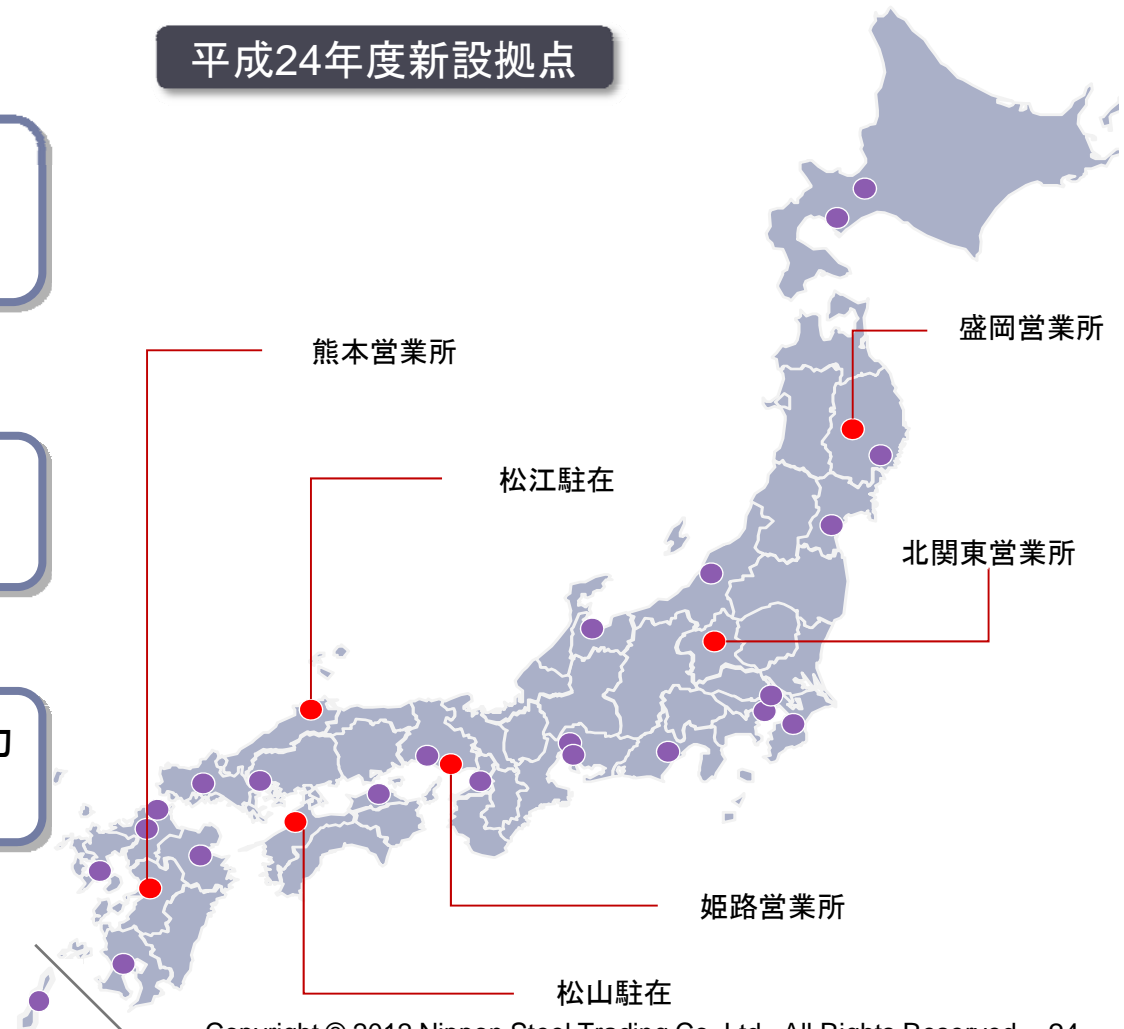
平成24年度 **6拠点**増設
34拠点 ⇒ 40拠点

- 再編・統合への積極対応

コイルセンター、シャーリング、
鋼材特約店等

- 成長分野への取組み強化

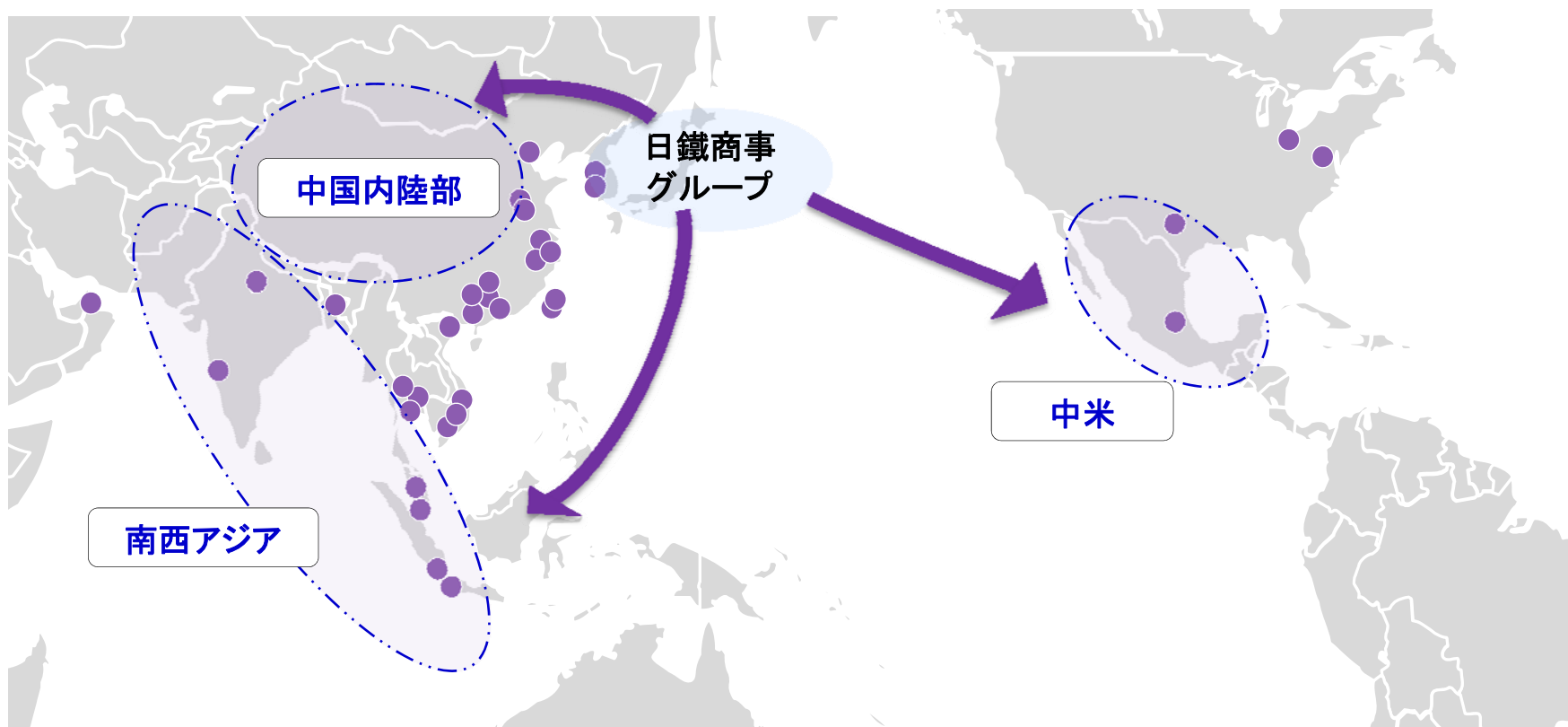
環境・エネルギー分野(太陽・風力
発電)の市場開拓



海外鋼材部門

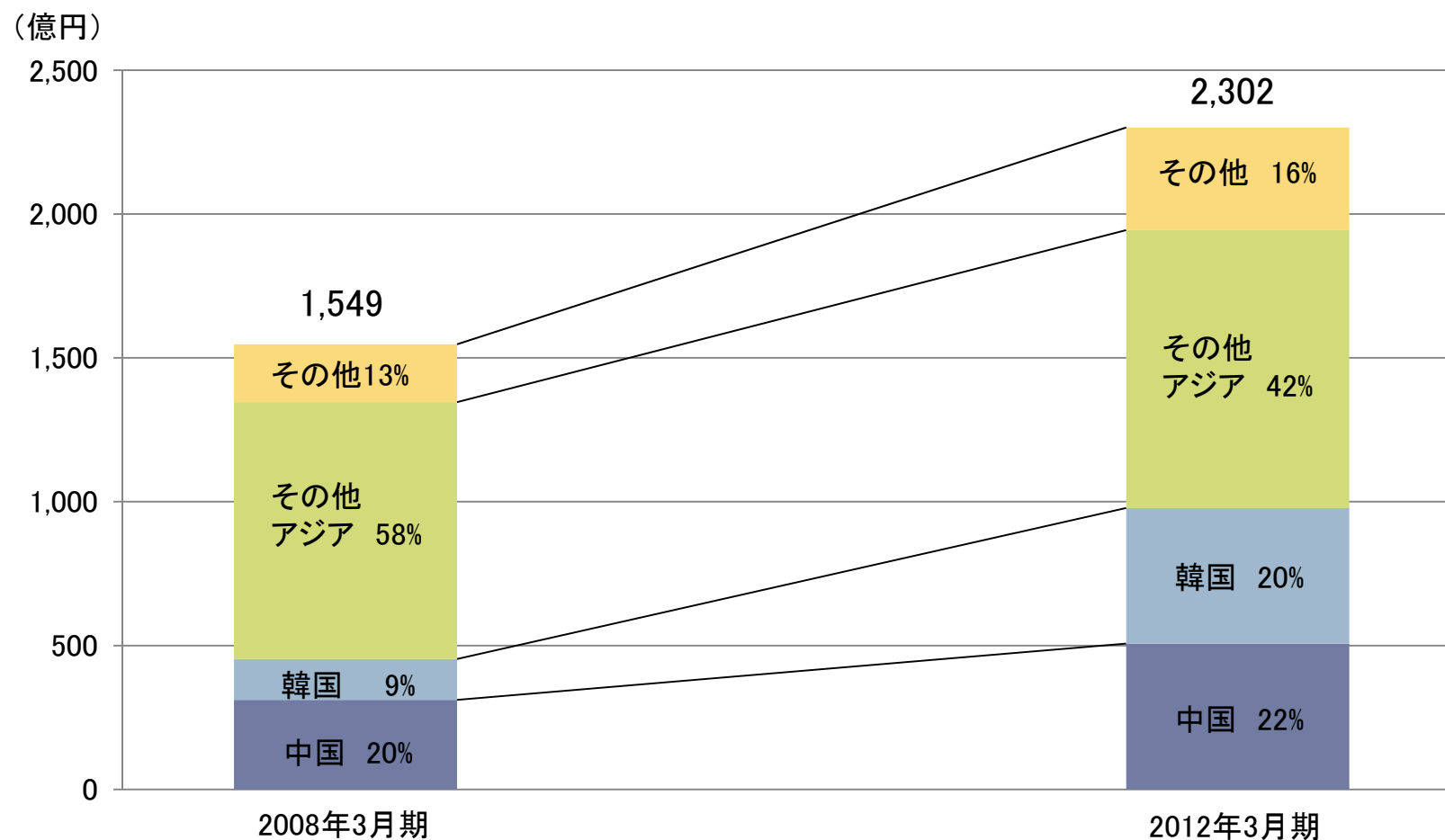
海外売上比率 現状30% ⇨ **40～50%へ**

- 海外拠点における地場販売・仕入力強化
- 営業・加工拠点の拡充
(中国、インド、インドネシア、バングラデシュ、ミャンマー、中米など)



海外鋼材部門

● 海外売上高比率(単体)



原燃料部門

取扱商品・調達ソースの拡充

- 三事業分野の更なる拡充

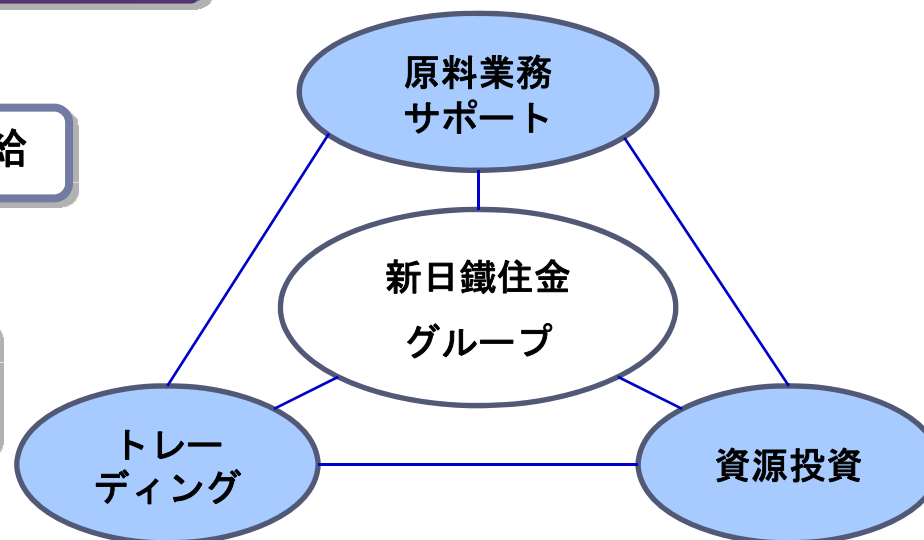
新日鐵住金グループへ製鉄原料の安定供給

- 投資の実行、調達ソースの拡大

コドリラ炭鉱 ⇒ 2013年 出炭開始予定
モザンビーク ⇒ 2012年 採掘権申請中

- 副原料の取扱拡大

三事業分野



産業機械・機材部門

取扱商品・調達ソース及び販売地域の拡充

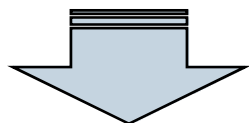
● 産業機械部門

建設機械

製鉄機械

コンプレッサー

水処理設備



- 取扱商品の拡充
- 調達ソースの多様化
- 販売地域の拡大
ロシア + インド、中国、ブラジル

● 機材部門

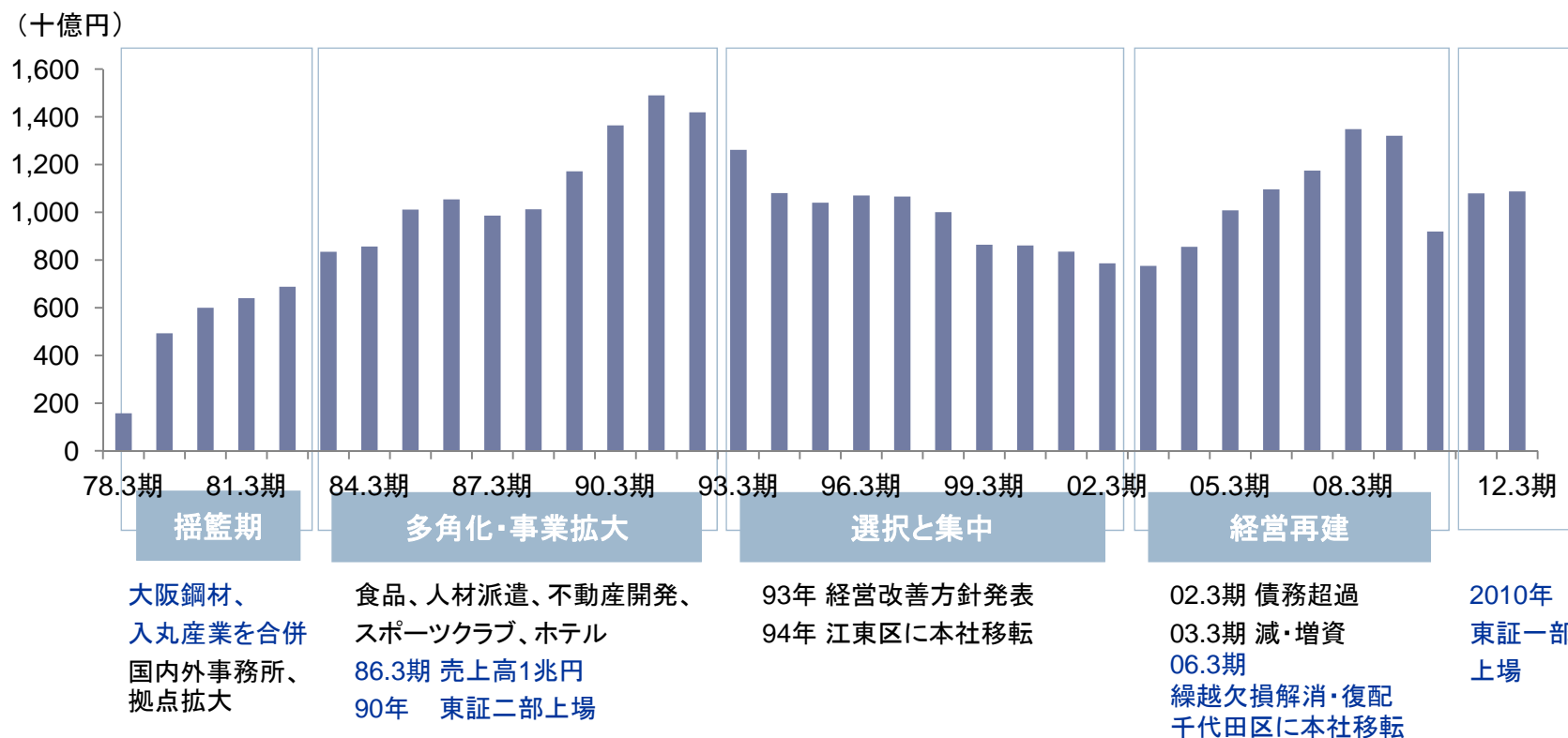
メーカー商社としての機能の発揮



(ご参考)

沿革

売上高の推移と沿革



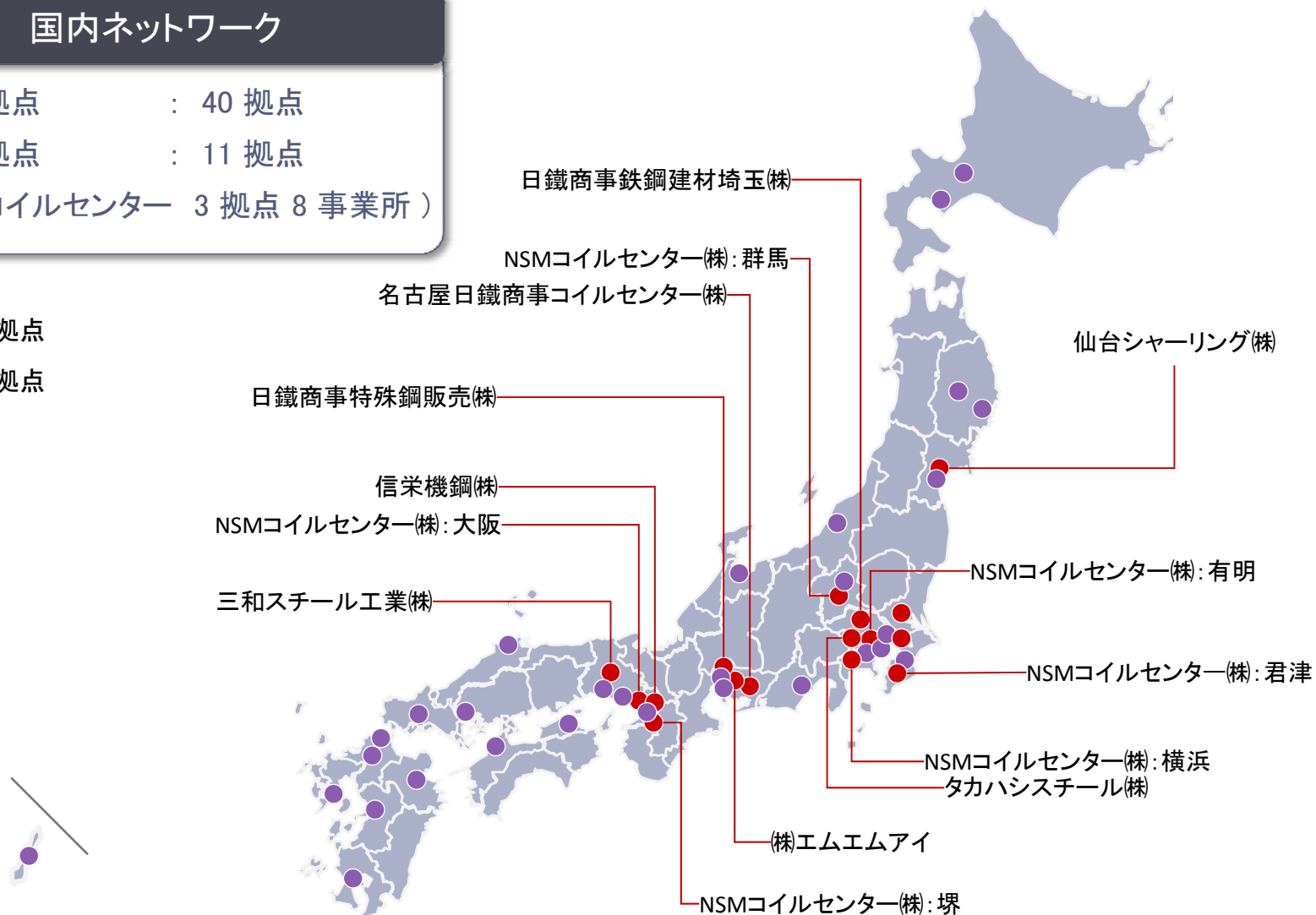
*1977年設立(大阪鋼材は1936年設立、入丸産業は1920年創業)

国内事業拠点

国内ネットワーク

販売拠点 : 40 拠点
 加工拠点 : 11 拠点
 (内、コイルセンター 3 拠点 8 事業所)

- 販売拠点
- 加工拠点



海外事業拠点



Disclaimer

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

お問合せ先:

日鐵商事株式会社 総務法務部 岩崎 文夫

電話:03-6225-3500

E-mail:fumio_iwasaki@ns-net.co.jp